



新潟県ソウル事務所発



韓国レポート

2019.5.16

<第15回レポート>

韓国仁荷大学校で新潟県について出張講義を行いました

ソウル事務所では、韓国仁川広域市にある仁荷(イナ)大学校から2年に1度、日本語文化学科の学生(3、4年生)を対象とした新潟県に関する講義の依頼を受けており、今回は4月、同校にて出張講義を行いました。

同校の日本語文化学科は、200名ほどの学生が在籍し、日本語人材の養成を行っております。また同校は、新潟大学と2001年から大学間交流協定(2002年から学生交流協定)を締結し、交換留学や教員・研究者の相互派遣など幅広い学術交流を重ねております。

当日の講義では、学生に新潟県の魅力を知って、関心を高めてもらうため、新潟県の清酒や金属加工品などの特産品、スキー場や温泉地などの観光地について説明しました。学生たちは、日本の文化に関心が高く、新潟県は米や雪、日本酒で有名という漠然としたイメージを持っていました。しかし、「久保田」や「八海山」、「がんばれ父ちゃん」などの日本酒、「ふんわり名人」といった米菓が新潟県で製造されていることを聞き、身近なところに新潟に関わるものがあることを知って驚いていました。

また、大学側の話では、日本語文化学科の学生は、芸能やマンガなど日本文化への興味を持ったことをきっかけに日本語の勉強を始め、今後は、自分の語学力を活かして、キャリアアップしたいとの気持ちから、日本企業に関心があるとのことでした。

昨今、韓国内の就職難と日本企業の人手不足を背景に、大学での専攻を生かして日本企業で働く韓国人が、2017年末現在で2万人を超え、2015年から2年間で3割増えています(※1)。現地の就職支援機関の話では、「日本では大企業と中小企業との賃金格差が小さく、大企業だけでなく、優良な中小企業も多いことから、学生は日本企業に目を向けている」とのことです。

そのような状況の中、ソウルでは、優秀な人材を求める日本企業と日本でキャリアアップを望む韓国の若者との就職マッチングを行う「韓国若手人材採用相談会」が企画され、2年前から県内企業も参加されております(昨年度は4社が参加)。今年度も7月に開催されることから、ソウル事務所では、県内企業の取りまとめ担当であるERINA(環日本海経済研究所)と連携を図り、相談会の前には新潟県海外ビジネスコーディネーターによる事前ブリーフィングの実施など現地でのサポートを行ってまいります。

※1 法務省在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(「技術・人文知識・国際業務」ビザ取得者数)

